

アクリルシリコン系可とう型石材調ローラー仕上塗材

# DIA

# ダイヤ ラバストーン

F☆☆☆☆

## 防カビ・防藻

藻やカビの発生を防ぎ、衛生的な外観を維持します。

## 安全性

1液水系の材料のため施工性・安全性に優れています。

## 意匠性

自然石調の高級感あふれる仕上りをローラー塗りで実現しました。

## 耐候型

アクリルシリコン樹脂の採用で、塗膜性能を長期間維持します。

■ 標準色 28色 (別途ダイヤラバストーン見本帳をご参照下さい。)

# ダイヤラバストーン

## 標準施工仕様

工程	材料名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間*		施工用具
					工程内	工程間	
1	素地調整						
2	ダイヤラバストーン下塗材 清 水	16kg 0.5~0.8%	0.8~1.2kg/m <sup>2</sup> 14~20m <sup>2</sup> /缶	1	—	5時間 以上	多孔質ローラー
3	ダイヤラバストーン主材 清 水	18kg 0~0.5%	1.2~1.5kg/m <sup>2</sup> 12~15m <sup>2</sup> /缶	1	—	24時間 以上	多孔質ローラー
4	ダイヤビフレッシュシリコン艶消しクリヤー 清 水	15kg 0~0.7%	0.3~0.35kg/m <sup>2</sup> 43~50m <sup>2</sup> /缶	2	2時間 以上	—	エアレス、ローラー 刷毛

\* 間隔時間は気温23℃、湿度50%での時間です。

## 適用下地

新設時：モルタル、現場打ちコンクリート、PCパネルで、ダイヤワイドシーラーを塗布した下地  
 改装時：表面の汚れや粉状物が除去・清掃されたアクリルリシンや吹付けタイル面で、下地がモルタル、現場打ちコンクリート、PCパネルの場合。

### ● 塗装できない下地

ALCパネル、窯業系サイディング、金属サイディング、軽量モルタル、押出成型セメント板、木材、金属類(鉄、ステンレス、トタン等)などの下地。  
 改装時の下地への付着が弱い旧塗膜。

## 包装単位

ダイヤラバストーン下塗材……………16kg缶  
 ダイヤラバストーン主材……………18kg缶  
 ダイヤビフレッシュシリコン艶消しクリヤー ……15kg缶

## ■ 施工・管理上の注意

### 【塗装面の調整(新設)】

- ① 素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。
- ② セメント質下地は、表面の含水率10%以下(pH10以下)になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要で下さい。
- ③ 雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ④ PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
  - 1) 豆板、木コシ、破損箇所、不陸などは、セメントフィラー、セメンシャス#2000、セメンシャス#2500、リマモル#70等の下地調整材を使用し、補修して平滑にして下さい。
  - 2) 表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤガンシーラー又は、ダイヤシーラーをご利用下さい。
- ⑤ ALCパネルの場合  
 ダイヤカチオンフィラーまたはダイヤアクリスフィラーを塗布して下さい。

### 【塗装面の調整(新設・改修共通)】

- ① 屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
- ② 使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
- ③ 【塗装面の調整(改修)】
  - ① 各現場の改装工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理(ケレン、清掃、高圧水洗浄)などを行なって下さい。
  - ② 脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
  - ③ チョーキングは、ガンダー、ファイブラス等でケレン後、高圧水洗浄で除去して下さい。
  - ④ 既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には、高圧水洗浄後にダイヤガンシーラーまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
- ④ 材料の保管・管理
  - ① 開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
  - ② 材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
- ⑤ 【施工】
  - ① 気温5℃以下、降雨、降雪、強風および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨(雪)養生をして下さい。
  - ② 材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。攪拌を誤りますと成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
  - ③ 材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はハッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残り/ハリとなります。
  - ④ 乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
  - ⑤ コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。

- ⑥ 下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
- ⑦ 施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げして下さい。同一壁面途中で塗り継ぎは色違いやムラの原因となります。
- ⑧ 施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
- ⑨ 本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。
- ⑩ 希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上がらないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合等は少なめに希釈して下さい。
- ⑪ 常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- ⑫ 安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑬ 一度に厚く塗ると割れや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
- ⑭ 塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑮ フッ素や無機系などの再接着塗装処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄の営業所へご相談下さい。
- ⑯ 可使用時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
- ⑰ 使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
- ⑱ 下地の吸込ムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
- ⑲ シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。
- ⑳ 上塗材を施工する場合は、下塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
- ㉑ 予想外の降雨などが発生した場合は、シート養生などを行い塗装面が濡れないよう対策を講じて下さい。

### 【安全衛生上の注意】

- ① 取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
- ② 取扱後は、手洗い及びうがいを十分に行なって下さい。
- ③ 子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ④ 作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
- ⑤ 廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ⑥ 目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑦ 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑧ 中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- ⑨ 皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
- ⑩ 臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 【その他】
  - ① その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
  - ② 施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認ください。
  - ③ 施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート(SDS)をご確認ください。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/>にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。